

もったいない地球財布は
再利用品と地産地消を
すすめます



NEWS!

2016.5月号

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク 〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-17-11 エコロジーラボ内
郵便振替 00920-8-154437 年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)
TEL & FAX: 06-6462-2775 携帯: 090-8989-5182(代表山口) <http://www.geocities.jp/gconosaka/> gcon_osaka@yahoo.co.jp

大自然のエネルギーにはかなわない 命をつなぐことに目をむけよう

だから

熊本地震における、犠牲者の皆様にご冥福をお祈りし、大きな被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。いまだにつづく余震、さらに地殻が連動して動き出したのか、各地でも地震が起きています。日本列島は、海底深くに活火山帯の弓なりの地形の上にあること、そしてそこに私たち1億2000万人が住んでいることが、なんだか奇跡のような感じがしてなりません。

そんな中、当会は総会と研修を兼ねて、ゆめ風基金の緊急シンポジウムに参加しました。テーマは、「福島原発と障がい者」。本当に生々しい体験が5人かたからお話がありました。その一人である鈴木絹江さんの体験をご紹介します。

福島県田村市で障害を持つ人の自立生活支援の介助事業をしていて、鈴木さんも車いすの生活です。地震、津波そして福島原発事故という三重の複合災害。しかも原発はいまだに収束のメドが見えないこと。そして、支援者も被災し、広域避難しなければならず、地域も崩壊。避難できない障がい者がみえなくなり、支援を受けられなかった障がい者は命を落とした。高齢者も悲惨なことに。それは双葉病院での出来事、50名ほどが地震後に亡くなっていること。電源がなく医療機器が不能に、水道もガスもストップし温かいものが食べられない、トイレに行けない等、バスでの移送時にも多くの人が亡くなった。バリアフリーでなく、間仕切りのない体育館や学校には障がい者も高齢者も生活できない。

初期移動が命を左右するので、避難先を決めた優先順位は、初期移動が命を左右する。体温調整ができないので冷たく固い板に寝るともう起き上がれない。冷暖房、バリアフリートイレ、ベッド、そして温かい食事ができる場所。慣れた介助者と避難できる場所。ホテルや旅館をめざし新潟へ。ゆめ風基金から今何が必要かと連絡があり、「モノはいらないので宿泊代を支払うお金がほしい」と。即刻入金していただき、私たちは生き延びた。原発の恐ろしさをどうしても伝える使命を負っているし、福島からの避難者の受け入れも考え、そして京都に移住した。

原発をやめることが最大の防災です。

放射能汚染に向き合うことは、自分を映し出す鏡に向き合うことだ。

それまで築き上げてきたものへの思い、地域や仲間たちを捨てて暮らすことが出来るのか・・・。

決められないことを決めなければいけない苦しみと怒りが収まらない！

この絶望の中にあっても希望をもって生きてゆきたい。